



作業療法学科

病院、企業、海外派遣などで
専門性を生かした活躍ができる
作業療法士を育成します

作業療法とは、年齢や障がいの有無に関わらず、その人らしい生活ができるよう支えるアプローチです。対象者のやる気を引き出し、作業や環境を調整し、対象者が「したい」作業=生活行為が「できるよう」支援します。本学科では、生活者としての人に対する深い洞察力、社会的な課題の解決力等を磨き、多様な場面で専門性を生かした活躍ができる作業療法士を育成します。



3つの特色

1

人と社会の仕組みを
科学的に検証する

基礎医学や心理学などの人、生活行為、社会環境に関する知識や技術を網羅的に修得できます。

2

海外を知り、日本を学ぶ
海外大学との交流や海外研修を通じて世界の、授業実習・ボランティア等を通じて地域の作業療法を知ることができます。

3

大学院進学を見据えて
研究する

本学大学院（作業療法科学域）と連携し、ハイレベルな作業療法学の研究を経験できます。

●取得可能な資格・免許

- ☑ 学士（作業療法学）
- ☑ 作業療法士国家試験受験資格

国家試験に合格することで作業療法士の資格が得られます。作業療法士の免許取得後は、日本作業療法士協会の認定作業療法士や専門作業療法士を目指すことができます。

●作業療法士の仕事

その人らしさを発見し、生かすことが仕事

作業療法士は、人々がその人らしく生活できるようサポートすることをしています。そのため、人々がしたいこと、期待されていることができるよう、心理的支援、環境分析、運動分析などを包括的に検討し、最適な支援を選択しています。

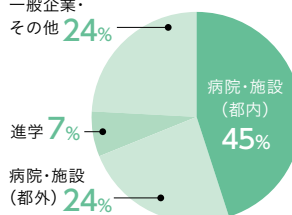
●国家試験合格状況（2025年実施）

資格名	受験者	合格者	合格率	全国※
作業療法士	41名	41名	100%	91.2%

※既卒者を含む

●進路情報（2025年実績）

一般企業・
その他



●主な進路先

都立多摩総合医療センター、都立大久保病院、都立豊島病院、東京都健康長寿医療センター、埼玉県総合リハビリテーションセンター、社会医療法人財団慈泉会 相澤病院、株式会社 LITALICO、東京都立大学大学院

4年間の流れ

1年次	2年次	3年次	4年次
幅広い教養と基礎知識を他学科と一緒に学びます	作業療法過程の基礎を学びます	臨地実習を通して、身につけた知識と技術の融合を目指します	卒業研究、海外研修、地域貢献などを選択し、課題解決力を培います
基礎・教養・基盤科目の他に基礎的な専門教育科目を学び、多職種連携学習を開始します。	基礎的な専門教育科目と作業療法評価・計画・実施の過程の基礎を学内と学外で学びます。	学外の実習施設で行われる臨地実習で、作業療法過程と多職種連携を学びます。	自由度の高い時間割を活かして、学びや経験の機会を自ら選択し、個性を伸ばします。

授業紹介

2年次

基礎作業学実習

石橋 裕 教授、山西 葉子 助教

あらゆる「生活行為」を分析し、知識や技術を身につけます

化粧、手工芸といったあらゆる「生活行為」を分析し、最適な支援ができるための知識や技術を身につけ、人々の生活行為を支援します。

2・3年次

作業療法総合演習

伊藤 祐子 教授、宮本 礼子 准教授

実践を通じて学び合い、縦のつながりで成長する！

2・3年生が合同で、知識の統合とクライアント支援のプロセスを学ぶ実践型授業。上級生との連携も強まります。

4年次

住環境整備学

橋本 美芽 准教授

住環境整備の基礎知識の修得を目指します

作業療法士の実務において、担当患者や障がい者の生活環境を指導する場合に求められる、住宅改修（住宅改修）と福祉用具活用の支援技術を学びます。



社会制度や作業療法士協会活動の動向に関する情報提供をもとに、キャリアプランを検討している様子

PickUp 授業

作業療法管理学

宮寺 亮輔 准教授

経験豊富な講師陣の講義により
社会が期待する作業療法士のあり方について
考える力が身につく

この授業では、作業療法を取り巻く社会の課題やニーズを見極めて即応する力を身につけるため、作業療法業務に関連する社会制度の仕組みを学びます。講義では様々な分野で管理職の経験を有する優れた外部講師の経験を紹介します。また社会制度の仕組みや理念を調べることにより、作業療法を取り巻く社会の変化を分析できるようになります。地域共生社会の一員である自身の振る舞いに関して議論することを通じ、職業人としての3年後、5年後、10年後の働き方がイメージできるようになります。自身のキャリアプランに役立つ授業です。

臨地実習

計 22 週間の学外実習で
幅広い作業療法学を学ぶ

「作業療法初期臨地実習」は 4 週間、「作業療法プロセス臨地実習」は 10 週間、「作業療法総合臨地実習」は 7 週間と、段階的に臨地実践能力を育てます。

	前期					後期						
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2年次												作業療法初期臨地実習
3年次							作業療法プロセス臨地実習			作業療法総合臨地実習		
4年次	地域作業療法学実習（期間中 1 週間）											

臨地実習後セミナーと卒業研究

国内外の学会形式を取り入れた、先駆的アクティブラーニングの実施

作業療学科では、アクティブラーニングを積極的に取り入れています。7 週間の作業療法総合臨地実習では、関心のあるテーマ（例：地域包括ケアシステムと生活支援など）を発見し、それぞれ実習指導者の指導も仰ぎながら学びを深めていきます。その成果は、実習後セミナーの中で学会と同様にポスター発表として披露されます。

卒業研究の特徴は、人と作業の関係を追求した発表が多い点にあります。卒業研究は、作業療学科の教員研究室に配属され、各自テーマを見つけ発表するか、大学院生や担当教員の研究の一部担い発表しています。学部生の中で本学の大学院進学が決定した学生は、大学院の博士前期課程を見据えた研究を行うこともあります。



教員を交えてディスカッションする様子
右下の写真は、短期留学生と合同の卒業研究発表の様子

在学生の声



作業療学科2年
寺内 暖さん
(2025年度現在)

救急の現場にも日常生活にも 役立てられる学びがある

私は、高校時代に心肺停止状態の高齢者への心臓マッサージを経験しました。救急搬送された患者さんが、手術後にICUなどで作業療法を受けるケースもあると知り、急性期の作業療法に興味を持ちました。授業では、作業療法士である先生方が経験した事例を聞くことで、患者さんを罹患前の状態に戻すだけでなく、病気や障害を抱えた状態でも生活を豊かにする支援が大切なのだと知りました。また、1年次には、ガンの発生要因を学ぶ全学部対象の科目も履修。病態の理解が深まれば、患者さんへの声かけや信頼関係の構築にもつながるため、総合大学ならではの有意義な授業だと感じました。

寺内さんの時間割

	月	火	水	木	金
1限	高齢領域の作業療法学		義肢装具学	作業運動学実習	解剖学実習
2限	小児科学	救急医学		画像診断学	
3限	医療英語 a (OT)	認知機能作業療法学	日常生活活動学実習	作業運動学実習	作業療法総合評価学
4限					発達領域の作業療法学
5限					

「解剖学実習」や「作業運動学実習」で、人体の基本構造や動きの仕組みに関する正確な理解と知識の定着に努めながら、さまざまな科目で作業療法の基本的な考え方を学習しました。症状別に要因と大まかな対処方法も学び、病院などでの実習に向けた基礎固めをしています。看護学科の先生が担当する「救急医学」では、職種を問わず医療従事者が持つべき知識なども学べます。



作業療法学科生 座談会

[学生×教員 座談会] 作業療法学科の魅力とは？

東京都立大学の作業療法学科は、東京都にある国立大学で唯一の作業療法学科です。その独自の魅力について、学生と教員に語り合ってもらいました。



井上 薫教授

生活支援機器の開発・臨床評価に関する研究、認知症ケアに関する研究、成人教育手法（医療系学生・地域住民・国際交流）に関する研究を専門とする。



山西 葉子助教

神経発達症児に対する作業療法介入、感覚統合療法の効果研究、発達性協調運動症児のアセスメント開発、余暇支援、医療的ケア児の保護者支援が専門。



樋口 晶さん

・入学試験種：一般推薦入試
・出身高校：昭和第一高等学校
東京都荒川区出身。地域密着型の荒川キャンパスに魅力を感じて入学。4年次は地域ボランティアとして患者さんを支えたい。



西尾 めぐみさん

・入学試験種：一般推薦入試
・出身高校：大阪成蹊女子高等学校
大阪府出身。東京で多くの人と出会い、知見を広げたい。福祉住環境コーディネーターの資格取得にもチャレンジしてみたい。

学部、学年を超えた活発なコミュニケーション

井上：都立大の作業療法学科は長い歴史があり、先輩たちがさまざまな分野で活躍していることが、後輩たちの励みになっていると思います。キャンパスの雰囲気はとても自由で、先生方は学生たちの主体性や興味関心を活かすよう指導していると感じています。

山西：私は地方出身なので、やはり東京の大学というアクセスの良さを実感しています。1年次は各学部が揃う南大沢のキャンパスで学びますが、2年次以降はアットホームな荒川キャンパスで学ぶことになりますね。

樋口：南大沢の基礎ゼミでは、他の学部の方と一緒にいる機会がありました。私は「発達について考える」ゼミで、グループワークや発表を通してさまざまな意見を聞くことができ、とても刺激を受けました。

西尾：荒川キャンパスでは先輩と親しくなる機会が多く、総合演習ではペアになった先輩にいろいろ教えていただきました。来年は自分たちがその立場になると思うと、気持ちが引き締まります。

樋口：実は私は荒川出身で、進路先を考える時に東京都の支援を受けられることが魅力でした。大学が地域密着で、荒川に貢献していることにも好感が持てました。

西尾：私は大阪出身ですが、東京でいろいろな人と出会いたくて入学しました。また、模擬講義を受けた時に、企業で仕事をしたり、行政や司法の分野で活躍する先輩たちがいて、選択肢が広いと感じたことにも背中を押されました。

自由に柔軟に学ぶ、集大成の4年次

井上：作業療法学科は対人支援職を育成するコースなので、コミュニケーション能力が段階的に身につくようなカリキュラムになっています。学生が課題を設定して、どのようなアプローチで解決していくかを考えます。

山西：3年次までに実習を終えて、4年次は留学やボランティアなど、学生は自由に学ぶことができるのも魅力の一つではないでしょうか。特に都立大は留学のチャンスが多く、昨年は国家試験が終わったあとに、バングラデシュに赴き、作業療法の現場に入らせてもらった学生もいました。

井上：卒業研究を選択すると、4年次の前期から動き出し後期に発表を行います。同時に夏頃から就職活動が始まり、秋から冬にかけて内定が決まってきます。年明けからは国家試験対策に集中するという感じです。

樋口：私は4年生になったら、ボランティアで地域の患者さんのお手伝いをしてみたいと思っています。

西尾：私は地域訪問の作業療法に興味があります。また、福祉住環境コーディネーターの資格にもチャレンジしたいと考えています。

井上：医療系専門職を目指す学生さんたちは忙しいと思いますが、生活のどこかに楽しみを見つけて、勉強と遊びも全力で楽しんでほしいですね。

山西：すでに二人とも勉強と同時に、サークルなどで活動していますよね。これからも、さまざまな価値観を持つ人と関わりながら、多くの経験を積んでほしいですね。

(2025年度現在)